

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



ルツの  
ラブストーリー



ぶん  
文: Edward Hughes

え  
絵: Janie Forest

かいさくしゃ  
改作者: Lyn Doerksen

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅつぱんしゃ  
出版社: Bible for Children  
[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし  
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、  
また きよか  
又はプリントは、許可されています。

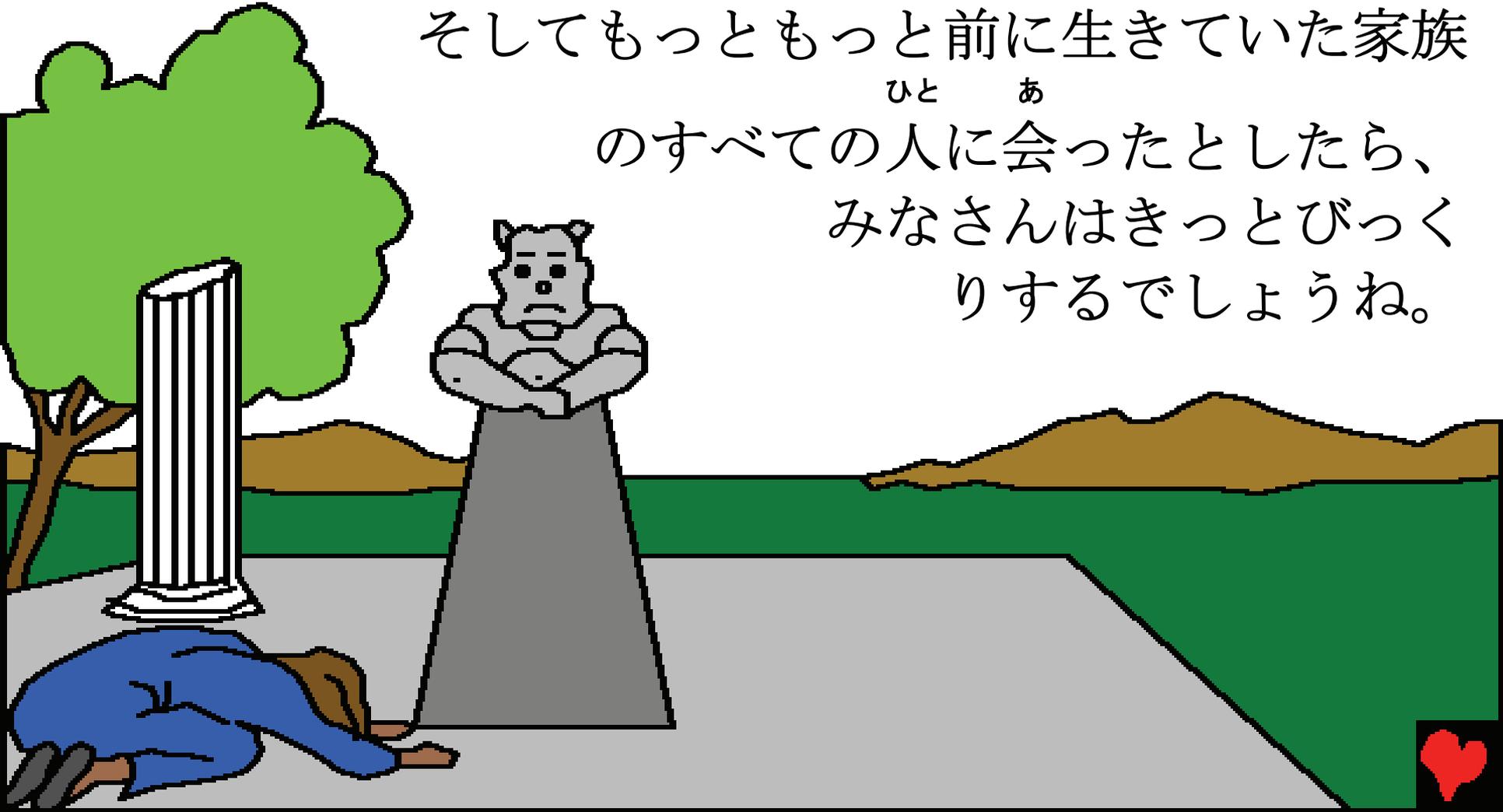


みなさん、ちょっと、そうぞうしてみてください。

もし、みなさんが、ひいおじいさん、  
ひいおばあさん、そのまたおじいさん、おばあさん、

そして<sup>まえ</sup>も<sup>い</sup>っとも<sup>かぞく</sup>っと前に生きていた家族

<sup>ひと</sup>の<sup>あ</sup>すべての人に会ったとしたら、  
みなさんはきっとびっく  
りするでしょうね。



かぞく                      むかし      ひと                      ひと  
「わたしの家族のずっと昔の人たちは、こんな人た  
ちだったんだなあ。」って。聖書には、人としてのイ  
せいしょ                      ひと  
せんぞ                      ひとり                      ひと

エスさまの先祖の1人にルツという人が  
います。ルツは、そのむかし、ほん  
かみ                      し

とうの神さまを知らないで、  
ぞう      れいはい  
ぐう像を礼拝



していたモ  
じん  
アブ人でした。



はなし

い

じだい

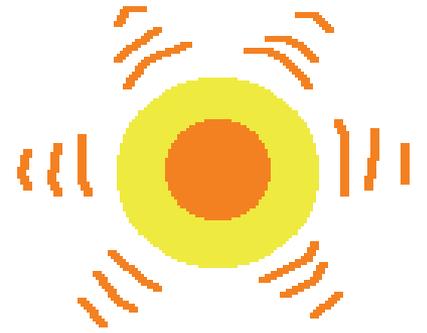
このルツのお話<sup>はなし</sup>はね、サムソンが生きていた時代<sup>い</sup>のあ<sup>じだい</sup>

とにはじまるのですよ。そのころ、神さまの民イスラ<sup>かみ</sup>エラ<sup>たみ</sup>

エルの人々は、神さまからすっかりはな<sup>ひとびと</sup>

れていましたので、神<sup>かみ</sup>を信<sup>しん</sup>じることも、  
したがうこともやめてしまっていました。

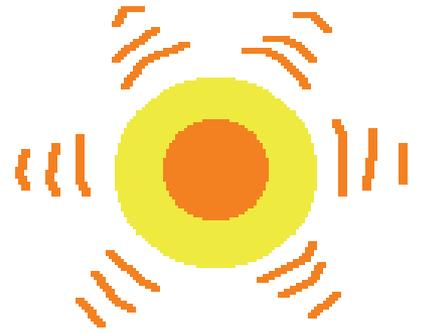
さて、そのイスラエル<sup>ち</sup>の地に、



ひどいききんがや  
ってきたのです。



みなさん、ききん<sup>なに</sup>って何でしょう。知っていますか。  
そう、そのとおりです。ムギやトウモロコシなどのこ  
くもつや、くだもの<sup>なに</sup>など何ひとつ<sup>た</sup>食べるも  
の<sup>そだ</sup>が育たないことですね。だからきき  
ん<sup>どうぶつ</sup>になると、動物も、人間<sup>にんげん</sup>たちも食<sup>し</sup>べ  
るものがなくおなかがすいて死  
んでしまったのです。



そのころ、ベツレヘムにエリメレクという人<sup>ひと</sup>がいました。かれもまた、食<sup>た</sup>べるものがありません。そこで、おくさんと2人<sup>ふたり</sup>のむすこをつれ、ベツレヘムをはなれることにしました。



た もと  
食べるものをさがし求めて、かれらはモアブという  
ところ ひとびと  
所にたどりつきましたよ。そこの人々は、ほんとう  
かみ ぞう れいはい  
の神ではなく、ぐう像を礼拝していました。



エリメレクと、  
かれのおくさんやむすこたちは、ここモアブに  
す しあわ  
住みましたが、そこでは、かれらは幸せにくら  
すことは



できませ  
んでした。

かな な  
悲しいことに、エリメレクが亡くなり、  
ふたり し  
つづいて2人のむすこも死んでしまったのです。



エリメレクの

ふたり

おくさんナオミは、2人のむすこたちのおくさん、

ひとり

のこ

ルツとオルパといっしょに、1人モアブに残されて  
しまいま



した。

な  
亡くなったむすこたちのおくさん、

ひと

ルツとオルパはモアブの人でしたよ。



おっと な いま  
夫も亡くなり、ナオミは今ひとりぼっちです。そのと

しゅ こくみん  
きナオミは、主がかれの国民のところ、イス

こ ひとびと た もの あた  
ラエルに来られ、人々に食べ物を与えられ

はなし  
ているという話

き  
を聞きました。



そこで、かの<sup>じよ</sup>女は、ふるさとイスラエルにもどろうと  
<sup>き</sup>決めたのです。でも、2人の<sup>ふたり</sup>まだ若い<sup>わか</sup>ル  
ツやオルパはいったいどうしたらいい  
のでしょうか。



ナオミは、かれらにこう言いました。「ルツ、オルパ、わたしはイスラエルにもどります。でもあなたたちはま<sup>い</sup>だ若<sup>わか</sup>いでしょ<sup>のこ</sup>う。だから、モアブに残<sup>けっこん</sup>つて、もういちど結婚してしあわせにな<sup>のこ</sup>ってくだ<sup>けっこん</sup>さいね。」



そこで、オルパは自分のお父さんとお母さんの家にも  
どっていきました。でもね、ルツはどうしたでしょう。

「いいえ、わたしは、父や母のところにはも  
どりません。あなたは、わたしの亡くなっ

た夫のお母さんです。

だから、今はわたしの  
お母さんです。



どうぞいつまでもあなたについて行か  
せてください。」心やさしいルツは、

ナオミにこのように言って、

いっしょに生きていくこ  
とをやくそくしました。



とも

じよ

ナオミのむかしの友だちはみんな、かの女がベツレヘムにもどってきたので、おおよろこび。けれどもナオ

とも

ミは、友だちにこのようにたのみました。「これからは、

にが

わたしをマラ（苦い）

よ

って呼んでください。

ナオミ（よろこび）

のかわりにね。」



い  
そしてまた、言いました。「なぜなら、何でもおでき

なる主なる神が、わたしにとても  
しゆ かみ  
きびしくされたので、わたしは

くる  
ひどく苦しんだからです。」

なに うしな  
ナオミは何もかも失って、

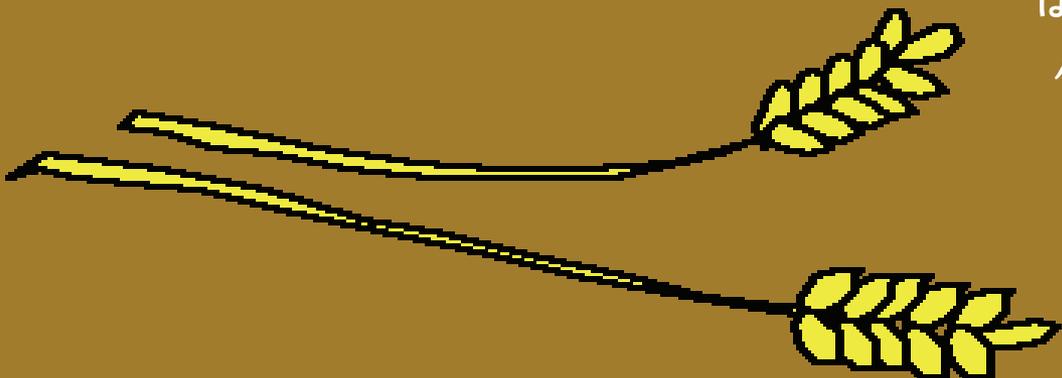
じぶん  
1人ぼっちで自分のふるさと  
にもどってきたのです。

—ただルツだけはいっしょ  
でしたけれどね。





く  
ここイスラエルへ来るまえ、  
ぞう れいはい  
ルツは、ぐう像を礼拝していました。  
ひとびと  
モアブのほとんどの人々がそのように  
いま  
していましたからね。けれども今、  
い  
イスラエルの生きていらっしゃるほ  
かみ れいはい  
んとうの神さまを礼拝するようにな  
りました。ルツはいっしょうけんめい  
はたら  
働きました。





ナオミがじゅうぶんにごはんを<sup>た</sup>食べる  
ことができるようにね。ルツは、  
<sup>ばたけ</sup> <sup>で</sup> <sup>い</sup>  
まいにち畑へ出かけて行き、  
<sup>か</sup> <sup>い</sup> <sup>しごと</sup> <sup>ひと</sup>  
刈り入れの仕事をしている人のあ  
<sup>ある</sup> <sup>か</sup> <sup>と</sup>  
とについて歩き、刈り取ったあとの  
<sup>のこ</sup>  
残りものを、ひろいあつめました。





はたけ ぬし ひとり

畑のもち主の1人にボアズと  
ひと

いう人がいました。かれは、

じぶん な

ルツが自分の亡くなってしまっ

おっと かあ

た夫のお母さんにどんな  
にやさしくしてあげてい

き

るかを、聞きました。





あ  
あるとき、ボアズはルツに会い、  
じよ たす  
かの女を助けてあげたいと  
おも  
思いましたよ。そこで、  
か い しごと  
刈り入れの仕事をしてい  
ひと い  
る人たちに言いました。





か と  
「ムギをぜんぶ刈り取ってしまったわ  
すこ のこ  
ないで、ほんの少しだけ残して  
おいてください。」ボアズは、  
あ  
このやさしいルツに会って、  
す  
だんだん好きにな  
っていきました。





ルツは、ナオミにボアズ  
しんせつ

がどんなに親切にしてくださっ

ているかはな話しますと、お  
しゅうとめ

姑さんのナオミは、

かみ神さまをほめたた

いえてこう言いま  
した。





ひと  
「ルツ、その人ボアズはね、  
しん  
わたしたちの親せきですよ。

いちぞく  
わたしたちの一族の  
おとこ ひと ひとり  
男の人の1人な  
のす。」





とき

時がたつにつれて、ボアズ

けっこん

はルツと結婚して、

ナオミもかの

じょ とち

女の土地も、

めんどろをみてい

おも

きたいと思うようになりました。でもね、

しん

なか

ナオミの親せきの中に、ボアズよりもっと

ちか しん

おとこ ひと

近い親せきの男の人がいました。そして、

ひと

なん

さき

その人がまず、何でも先にえらぶことが

ひと

い

できるのです。その人はこう言いました。





とち

「ナオミの土地はほしいな。

でもルツは、  
おくさんにした  
くないよ。」



けれどもそのこ

ひと

ほう

ろの法りつでは、その人は1つのものだ

う

と

ひと

う

と

けを受け取り、もう1つのものを受け取  
らないということは、できませんでした。

ひと

じぶん

けんり

そこで、その人はボアズに自分の権利  
をゆずることにしました。



じだい

ひとびと はな あ

その時代、イスラエルの人々は話し合いが

いま

しゅ

うまくいったとき、今のようにあく手を  
しなかったのですよ。では、  
どうするのでしょうか。



ボアズはみんなの前で、自分のくつを脱いでもうひ

とりの男の前におきました。これで、

話し合いがうまくいったということなのです。

こうして、ルツはボアズのおく  
さんになりました。

いま  
今、ルツとナオミは、  
かぞく  
ボアズの家族なのです。



ボアズとルツは、かれらの初めのむすこをオ

ベドと呼びました。じつは、  
オベドはダビデのお  
じいさんなのです。  
ダビデはイスラエル  
のりっぱな王さまに  
なりましたよ。



はなし

みなさん、ここでもっともっとすばらしいお話を

あか

しましょうか。ルツとボアズの赤ちゃんオベドは、

しゅ

せんぞ

主イエス キリストの先祖だったのです。

おう おう

よ すく めし

王の王であり、この世の救い主であるイエスさまは、

じつはこのダビデの

いえ

う

家から生ま

れられたの

です。



おう おう

王の王



# ルツの ラブストーリー

かみ み せいしょ する  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

き  
ルツ記

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに  
かみ かみ  
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを  
おも  
しってほしいと、思っています。

かみ わたし  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい  
かみ つみ つみ  
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の  
し かみ あい  
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい  
ひとり こ よ おく  
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って  
つみ じゅうじかじょう な  
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ  
てんごく  
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい  
しん  
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる  
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください  
いま ところ き なか  
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に  
す い  
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生  
きることができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ  
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな  
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ  
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして  
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし  
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい  
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし  
て生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

